

一段上の安全レベル提供

通信機能付きヘルメット発売

谷沢製作所（東京都中央区、谷澤和彦社長）は、無線LANやFOMAの通信機能を搭載したヘルメット

「Uメット」（NECと共同開発）を発売した。作業者と管理者がリアルタイムで現場状況を共有するのに役立つという。谷澤社長は、老舗ヘルメットメーカーの同社が「一段上の安全レベルを提供できる商品になる」と力説。安全に対する意識が高まる中、ICT（情報通信技術）やセンサー技術を取り入れたUメットが建設などの現場に革新をもたらすとして、普及活動を展開していく構えだ。

社員のアイデアで商品開発

■Uメット開発のきっかけは。

「従来型のヘルメットは、利用者の意見を取り入れながら、軽量化や被りやすさを追求してきた。これに対してUメットは、社員が出したアイデアが開発のきっかけとなった。米国の同時多発テロなどを経て、現場で何が起きているかを的確に把握することの重要性が問われるようになった。それを可能とするために1932（昭和7）年の創業以来取り組んでいたヘルメットに、ICT（情報通信技術）やセンサー技術を組み込んでみよう、2年前にプロジェクトを立ち上げ

最前線



谷沢製作所 谷澤 和彦社長



Uメット

て開発を進めてきた」

■開発に取り組む過程で社内や顧客からどのような反応があったか。

「社内には当初、Uメットが商品になり得ないだろうといった声も多く、担当した社員たちは、大変な思いをしながら開発に取り組んできた。マーケティングの目的で各種イベントに出展すると、興味を示さないであろうと考えていた建設業やかつて重厚長大産業と呼ばれた業界の人たちの関心が高かったことを知り、方向性は間違いないと確信した。次第に社内でも理解が得られるようになっていった」

複数の現場管理にも有効

■Uメットは、どのような場面です

「例えば、何十社もの下請け会社が入る造船所で作業中に人が倒れると、どこにいるかを探すだけでも大変な作業になるという。Uメットを活用すれば、落下物から身を守る従来のヘルメット機能に加え、通信やセンサー機能を用いて、誰がどこで作業をしているかを確認したり、危険を未然に防止したりできるようになる」

「複数の現場を掛け持つ管理する場合、事務所内で同時に現場状況を確認できるようなれば、移動に要する手間やコストの削減にもつながるなど多くのメ

リットが期待できる。建設業者の数は減っているが、安全に対する意識は一段と高まっており、Uメットを現場で活用したいというゼネコンからの問い合わせは多い。すでに試験導入を始めている事例もある」

普及に向けまずはトライアル

■販売戦略は。

「Uメットは安い商品ではないので、導入しよつとすれば、それなりの投資が必要となる。発売初年度の本年度についてはトライアルで取り入れ、その機能を理解した上で、来年度に本格採用の予算取りをしていただけるようにしたい」

■次の展開をどう考えているか。
「先日ある講演会で、昆虫の研究が進んでいるという話を聞いた。昆虫にはセンサー機能を持つ触角があり、危険が近づいてきているのを未然に察知して回避できるという。人間はそつとした触覚を持たないが、センサー技術を用いて、心臓に異常が生じたり、眠気が襲ってきたりするのを検知することはできるだろう。こつとした機能と通信機能を組み合わせれば、健康状態に起因する現場での事故の防止に役立てることができるのではないかと。ここに次の取り組みのヒントが隠されているように思う」。

☆

無線LANと3・5世代モバイル網(FOMA)

Uメット 代モバイル網(FOMA)

での通信機能を搭載。カメラ、衛星利用測位システム(GPS)、倒れセンサーなどの機器を超小型モバイルサーパ・ボードとともにヘルメットに組み込み、映像情報、位置情報、音声、アラームなどを無線通信で遠隔の管理者側に送ることができる。

希望小売価格は、無線LANタイプが39万2000円、無線LAN/3・5G両用タイプが40万4000円。通信機能なしのベースメットは96000円。